

**九州地方整備局事業評価監視委員会（平成17年度 第1回）  
議 事 概 要 （ 速 報 ）**

○日 時 平成17年8月1日（月）13:00～16:00

○場 所 福岡市博多区 ホテルセントラータ博多 花筐の間 （3F）

○出席者

- ・ 委 員 明石委員、浅野委員、井上委員、小野委員、楠田委員、実積委員、善委員、野見山委員
- ・ 整備局 宮田 局長、岩瀧 副局長、荒井 副局長、中島 総務部長、田中 企画部長、川崎 河川部長、岡本 道路部長、大木 営繕部長、門間 用地部長 他

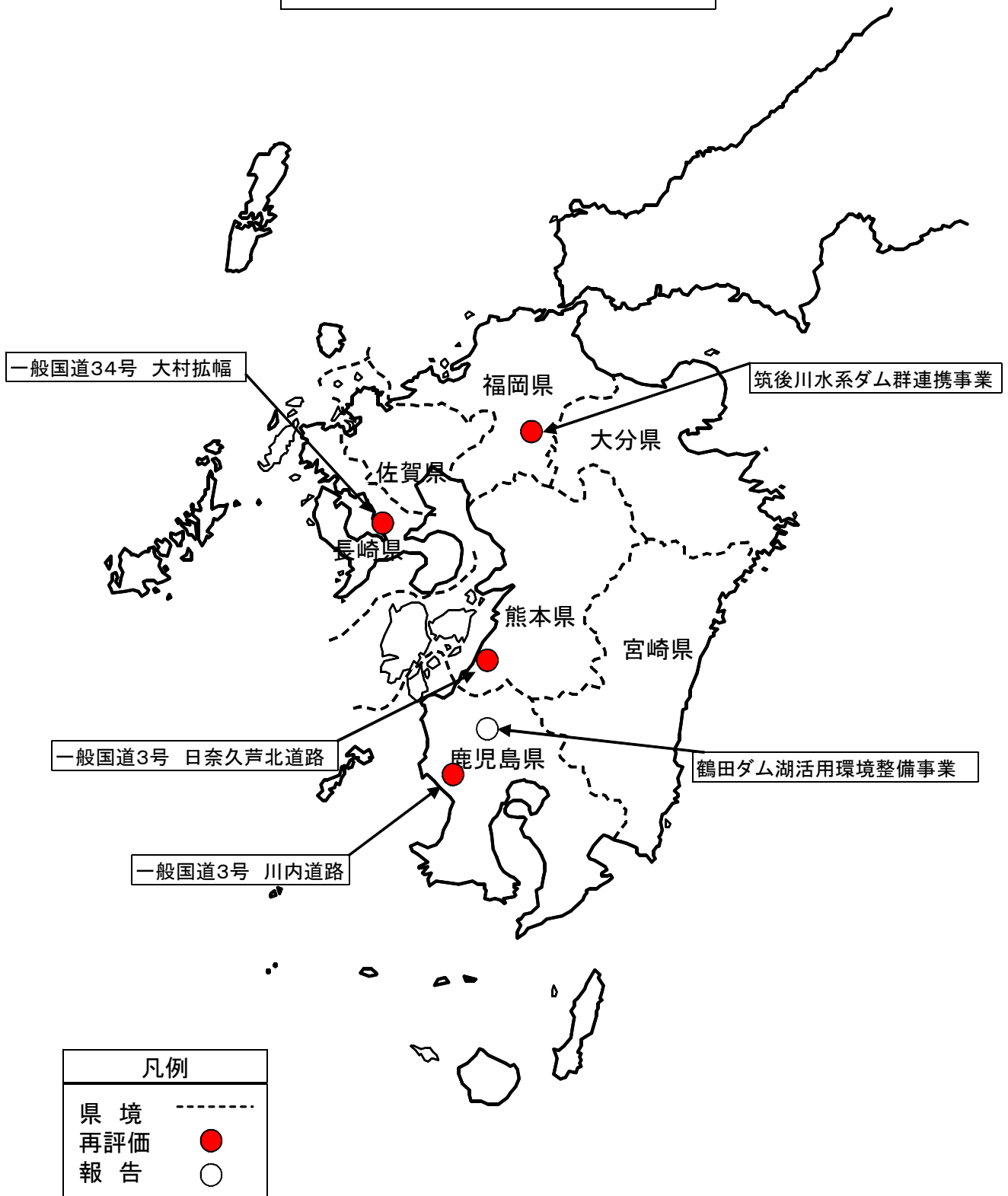
○資 料

- ・ 資 料－1 議事次第
- ・ 資 料－2 九州地方整備局事業評価監視委員会 委員名簿
- ・ 資 料－3 九州地方整備局事業評価監視委員会（平成17年度 第1回）出席者名簿及び座席表
- ・ 資 料－4 九州地方整備局事業評価監視委員会規則及び運営要領
- ・ 資 料－5 平成17年度再評価及び事後評価対象事業一覧表
- ・ 資 料－6 平成17年度の委員会の運営について（案）
- ・ 資 料－7 平成17年度第1回委員会 事業再評価（ダム1事業、道路3事業）
- ・ 資 料－8 " 報 告（ダム1事業）
- ・ 資 料－9 " そ の 他（ダム1事業の状況紹介）
- ・ 参考資料 事業評価に関する実施要領等
  - ・ 国土交通省所管公共事業の再評価実施要領
  - ・ 国土交通省所管のいわゆる「その他施設費」に係る再評価実施要領
  - ・ 国土交通省所管公共事業の事後評価実施要領
  - ・ 国土交通省所管のいわゆる「その他施設費」に係る事後評価実施要領

○議 事

1. 開 会
2. あいさつ （九州地方整備局 宮田局長）
3. 出席者の紹介
4. 委員会規則等について
5. 平成17年度委員会の運営について
6. 対象事業の審議
  - 1) 重点審議事業の選定説明
  - 2) 再評価対象事業の説明、審議（ダム1事業、道路3事業）
    - ・ 筑後川水系ダム群連携事業
    - ・ 一般国道 3号 日奈久芦北道路
    - ・ 一般国道 3号 川内道路
    - ・ 一般国道34号 大村拡幅
  - 3) 事後評価対象事業の報告（ダム1事業）
    - ・ 鶴田ダム湖活用環境整備事業
7. その他（ダム1事業の状況紹介）
  - ・ 城原川ダム建設事業
8. 閉 会

# 位置図(再評価・報告)



## 九州地方整備局事業評価監視委員会 委員名簿

- あかし ひろよし  
明石 博義 (社)九州・山口経済連合会副会長
- あさの なおひと  
浅野 直人 福岡大学法学部教授
- いのうえ のぶあき  
井上 信昭 福岡大学工学部教授
- おの ゆういち  
小野 勇一 九州大学名誉教授(北九州市立いのちのたび博物館館長)
- くすだ てつや  
楠田 哲也 九州大学大学院工学研究院教授
- じつづみ としや  
実積 寿也 九州大学大学院経済学研究院助教授
- ぜん こうき  
善 功企 九州大学大学院工学研究院教授
- のみやま みちこ  
野見山 ミチ子 NPO法人「直方川づくりの会」理事長

(敬称略 五十音順)

## ○委員長、副委員長の選出

九州地方整備局事業評価監視委員会規則第3条7項に基づき、委員長に楠田委員、副委員長に明石委員及び善委員を選出した。

## ○平成17年度委員会の運営について

平成17年度委員会の運営について審議を行い、効果的かつ効率的な委員会運営のため、委員会で重点審議事業を選定する「選定委員」を置き、対象事業ごとの性格に応じた審議を行っていくことでも了承された。

※委員会での重点審議事業を選定する「選定委員」を以下のとおり選出した。

- |          |             |
|----------|-------------|
| ・河川事業    | ・ ・ ・ 小野委員  |
| ・道路事業    | ・ ・ ・ 井上委員  |
| ・ダム、営繕事業 | ・ ・ ・ 浅野委員  |
| ・港湾事業    | ・ ・ ・ 楠田委員長 |

## ○重点審議事業の選定説明

本日の審議事業における重点審議事業の選定理由について、ダム事業の選定委員である浅野委員及び道路事業の委員である井上委員より説明を行った。

## ○審議結果

事務局より再評価対象事業（ダム1事業、道路3事業）について説明し、審議を行った。

### 【筑後川水系ダム群連携事業】 ・ ・ ・ 事業継続

■審議の結果、対応方針（原案）どおり、事業継続でも了承された。

#### ■委員からの意見

◆対応方針案については、原案どおり了承。早期の建設事業着手を目指していただきたい。

◆この事業のように、効果を貨幣価値に置き換えることが難しい事業について、効果をどのように示していくのかは、今後の検討課題である。

### 【一般国道 3号 日奈久芦北道路】 ・ ・ ・ 事業継続

■審議の結果、対応方針（原案）どおり、事業継続でも了承された。

#### ■委員からの意見

◆対応方針案については、原案どおり了承。早期の供用に向け、事業を推進していただきたい。

◆費用対便益の計上方法について、条件等を明確にしていきたい。

◆今後はコスト縮減について定義を明確にし、誤解の無いように説明できるよう工夫していただきたい。

【一般国道 3号 川内道路】・・・事業継続

【一般国道34号 大村拡幅】・・・事業継続

■審議の結果、対応方針（原案）どおり、事業継続で了承された。

■委員からの意見

◆対応方針案については、両事業とも原案どおり了承。早期の供用に向け、事業を推進していただきたい。

◆日奈久芦北道路と同じく、コスト縮減について定義を明確にし、誤解の無いように説明できるよう工夫していただきたい。

## ○報告

事務局より、事後評価対象事業（ダム1事業）について報告が行われた。

【鶴田ダム湖活用環境整備事業】

## ○その他

事務局より、ダム事業についての状況紹介が行われた。

【城原川ダム建設事業】

**九州地方整備局事業評価監視委員会（平成17年度 第1回）  
議 事 概 要**

○日 時 平成17年8月1日（月）13:00～16:00

○場 所 福岡市博多区 ホテルセントラータ博多 花筐の間 （3F）

○出席者

- ・ 委 員 明石委員、浅野委員、井上委員、小野委員、楠田委員、実積委員、善委員、野見山委員
- ・ 整備局 宮田 局長、岩瀧 副局長、荒井 副局長、中島 総務部長、田中 企画部長、川崎 河川部長、岡本 道路部長、大木 営繕部長、門間 用地部長 他

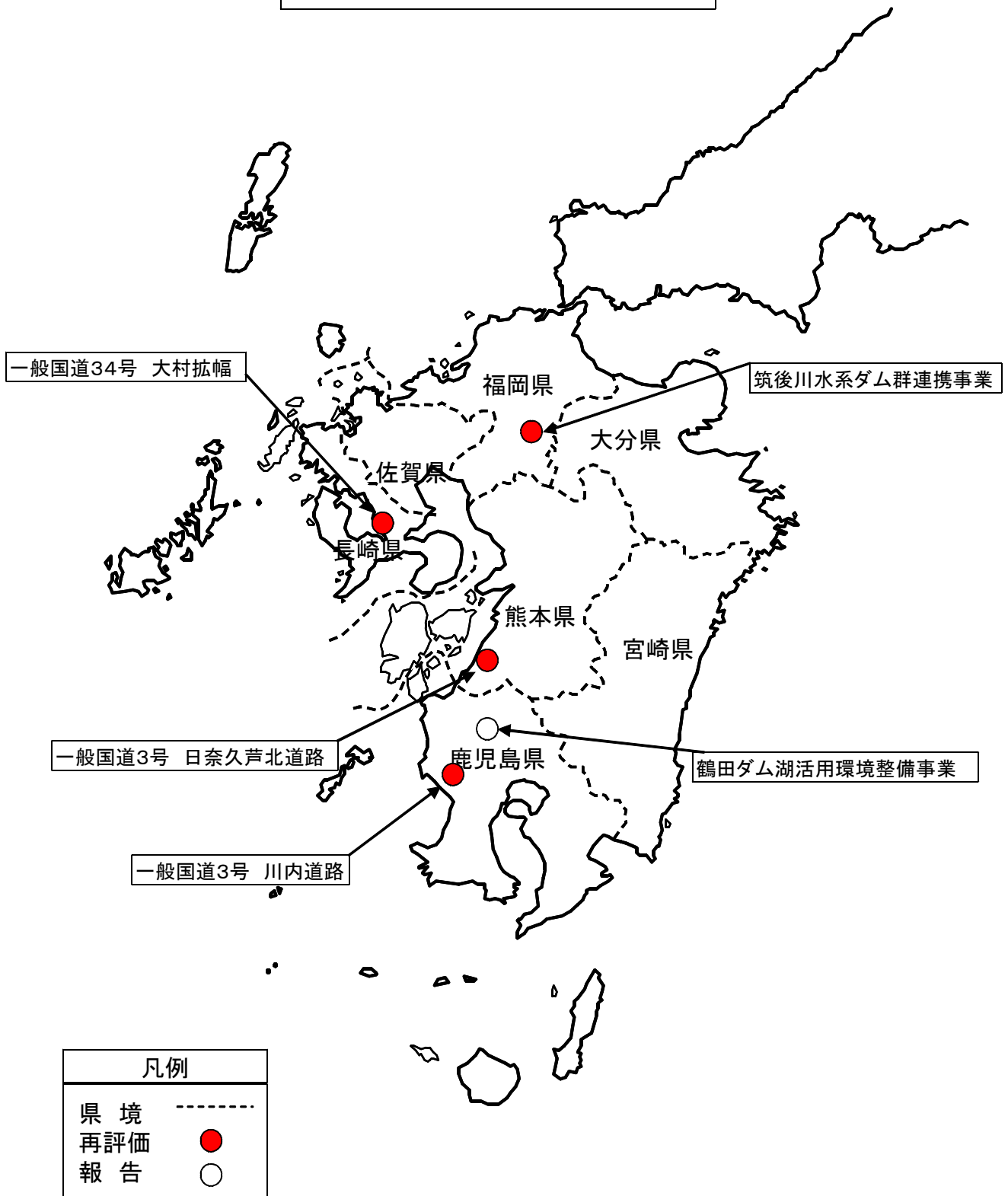
○資 料

- ・ 資 料－1 議事次第
- ・ 資 料－2 九州地方整備局事業評価監視委員会 委員名簿
- ・ 資 料－3 九州地方整備局事業評価監視委員会（平成17年度 第1回）出席者名簿及び座席表
- ・ 資 料－4 九州地方整備局事業評価監視委員会規則及び運営要領
- ・ 資 料－5 平成17年度再評価及び事後評価対象事業一覧表
- ・ 資 料－6 平成17年度の委員会の運営について（案）
- ・ 資 料－7 平成17年度第1回委員会 事業再評価（ダム1事業、道路3事業）
- ・ 資 料－8 " 報 告（ダム1事業）
- ・ 資 料－9 " そ の 他（ダム1事業の状況紹介）
- ・ 参考資料 事業評価に関する実施要領等
  - ・ 国土交通省所管公共事業の再評価実施要領
  - ・ 国土交通省所管のいわゆる「その他施設費」に係る再評価実施要領
  - ・ 国土交通省所管公共事業の事後評価実施要領
  - ・ 国土交通省所管のいわゆる「その他施設費」に係る事後評価実施要領

○議 事

1. 開 会
2. あいさつ （九州地方整備局 宮田局長）
3. 出席者の紹介
4. 委員会規則等について
5. 平成17年度委員会の運営について
6. 対象事業の審議
  - 1) 重点審議事業の選定説明
  - 2) 再評価対象事業の説明、審議（ダム1事業、道路3事業）
    - ・ 筑後川水系ダム群連携事業
    - ・ 一般国道 3号 日奈久芦北道路
    - ・ 一般国道 3号 川内道路
    - ・ 一般国道34号 大村拡幅
  - 3) 事後評価対象事業の報告（ダム1事業）
    - ・ 鶴田ダム ダム湖活用環境整備事業
7. その他（ダム1事業の状況紹介）
  - ・ 城原川ダム建設事業
8. 閉 会

# 位置図(再評価・報告)



## 九州地方整備局事業評価監視委員会 委員名簿

- あかし ひろよし  
明石 博義 (社)九州・山口経済連合会副会長
- あさの なおひと  
浅野 直人 福岡大学法学部教授
- いのうえ のぶあき  
井上 信昭 福岡大学工学部教授
- おの ゆういち  
小野 勇一 九州大学名誉教授(北九州市立いのちのたび博物館館長)
- くすだ てつや  
楠田 哲也 九州大学大学院工学研究院教授
- じつづみ としや  
実積 寿也 九州大学大学院経済学研究院助教授
- ぜん こうき  
善 功企 九州大学大学院工学研究院教授
- のみやま みちこ  
野見山 ミチ子 NPO法人「直方川づくりの会」理事長

(敬称略 五十音順)



## ○委員会規則及び運営要領について

### 1. 会議の成立

九州地方整備局事業評価監視委員会規則第5条及び九州地方整備局事業評価監視委員会運営要領2(2)に基づき、会議の成立を確認した。

### 2. 委員長、副委員長の選出

九州地方整備局事業評価監視委員会規則第3条7項に基づき、委員長に楠田委員、副委員長に明石委員及び善委員を選出した。

## ○平成17年度委員会の運営について

平成17年度委員会の運営について審議を行い、効果的かつ効率的な委員会運営のため、委員会で重点審議事業を選定する「選定委員」を置き、対象事業ごとの性格に応じた審議を行っていくことので了承された。

※委員会での重点審議事業を選定する「選定委員」を以下のとおり選出した。

- ・河川事業                      ・ ・ ・ 小野委員
- ・道路事業                     ・ ・ ・ 井上委員
- ・ダム、宮繕事業            ・ ・ ・ 浅野委員
- ・港湾事業                    ・ ・ ・ 楠田委員長

## ○対象事業の審議

### 1. 重点審議事業の選定

本日の審議事業における重点審議事業の選定理由について、ダム事業の選定委員である浅野委員及び道路事業の委員である井上委員より説明を行った。

選定結果は、以下のとおりとなった。

#### 【重点審議事業】

- ・筑後川水系ダム群連携事業
- ・一般国道 3号 日奈久芦北道路

#### 【要点審議事業】

- ・一般国道 3号 川内道路
- ・一般国道34号 大村拡幅

### 2. 審議内容

事務局より再評価対象事業(ダム1事業、道路3事業)について説明し、審議を行った。

## 「筑後川水系ダム群連携事業」について

### ■審議結果

- ◆ 対応方針案については、原案どおり事業継続で了承。早期の建設事業着手を目指していただきたい。

### ■委員からの主な意見

- ◆ 流域の水循環の観点から、農業用水として利用されて河川に還る水について、その水量と水質を定量的に把握することが今後重要と考える。
- ◆ 本事業のように、効果を貨幣価値に置き換えることが難しい事業について、効果をどのように示していくのかは、今後の検討課題である。

### ■委員からの主な質疑

- ◆ ダム群連携事業で確保される夏場の不特定用水の容量について。
  - ▲事務局：ダム群連携事業は、既存ダムの空き容量を活用するものであるため、新たに容量を確保するものではない。なお、事業実施中の大山ダム及び小石原川ダムが完成すれば、不特定用水の容量として約17百万m<sup>3</sup>が確保される。
- ◆ 実施計画調査が5年経過しても完了していない理由と、今後の進捗見込みについて。
  - ▲事務局：本事業は、流域の多くの関係者への説明や調整及び調査に時間が必要である。2年前から現地調査も実施しており、着実に調査は進捗していると考えている。今後も、引き続き、早期の建設事業着手を目指して調査等を継続する。完成時期については、水資源機構の小石原ダム建設事業と足並みを揃えたいと考えている。
- ◆ 便益の算定に用いている、仮想ダム規模の根拠について。
  - ▲事務局：瀬の下地点での流量40m<sup>3</sup>/sに対する不足量を補うために、筑後川上流で最も経済的な大山ダム建設予定地に容量14百万m<sup>3</sup>の仮想ダム建設を想定している。

## 「一般国道 3号 日奈久芦北道路」について

### ■審議結果

- ◆ 対応方針案については、原案どおり了承。早期の供用に向け、事業を推進していただきたい。

### ■委員からの意見

- ◆ 費用対便益の計上方法について、条件等を明確にしていきたい。
- ◆ 今回のバイパス事業のように、ネットワークで効果を発揮するような事業においては、今後、全線での費用対便益の評価についても検討していただきたい。
- ◆ 今後は、コスト縮減について定義を明確にし、誤解の無いように説明できるよう工夫していただきたい。

### ■委員からの質疑

- ◆ 便益算出において、いつどのような便益が発生するかについて。
  - ▲事務局：平成17年2月に、日奈久～田の浦間を暫定供用開始。

- ・平成20年度に、日奈久～芦北間の全線暫定供用開始と想定。
- ・平成30年度に、日奈久～芦北間の全線完成と想定。
- ・上記の条件により発生した便益について、平成17年度を基準として、現在価値化している。（本資料 道路1-33参照）

#### 「一般国道 3号 川内道路」について

#### 「一般国道34号 大村拡幅」について

##### ■審議結果

- ◆ 対応方針案については、両事業とも原案どおり了承。早期の供用に向け、事業を推進していただきたい

##### ■委員からの意見

- ◆ 日奈久芦北道路と同じく、コスト縮減について定義を明確にし、誤解の無いように説明できるよう工夫していただきたい。
- ◆ 諫早と大村間が渋滞しているため、ネットワークを考えると、この間の今後の事業も検討する必要がある。

##### ■委員からの質疑

- ◆ 大村拡幅の全線の供用年度について。
  - ▲事務局：平成20年度までに6割程度供用、平成26年度に全線供用を目標としている。
- ◆ 川内道路の資料(道路2-11)の「暫定供用による串木野～鹿児島市の所要時間の変化のグラフ」において、暫定供用前と比べて、供用後の方が南九州西回り自動車道の所要時間が長くなっている理由について。
  - ▲事務局：単純に南九州西回り自動車道の延長が伸びたため、その分の所要時間が増えている。（代わりに現道の所要時間は短くなっている）

#### ○報告

事務局より、事後評価対象事業（ダム1事業）について報告が行われた。

#### 【鶴田ダム湖活用環境整備事業】

##### ■委員からの質問等

- ◆ 整備箇所の管理主体と管理費用の負担について。
  - ▲事務局：地元自治体が占用しており、草刈りや清掃等に必要な費用は、地元自治体が負担している。

#### ○その他

事務局より、ダム事業についての状況紹介が行われた。

**【城原川ダム建設事業】**

- 委員からの質問等  
(特に質問等なし)